
K-ON × カリオストロの城

サッキー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

K・ON×カリオストロの城

【Zコード】

Z3878Z

【作者名】 サツキ

【あらすじ】

けいおんをルパン三世カリオストロの城風にしてみました。上手く出来るかわかりませんが、応援よろしくお願ひします。

第一話（前書き）

けいおん…ルパン三世カリオストロの城バージョンです。

私は作者ではなく、弟です。知っている方もいますが、現在サツキ
というネームでやっている私の兄は、入院中です。一つの作品を絶
対に自分の手で書きたいと言っています。し

かし、待たずのも悪いので、もしも、平沢唯の性格が、あの消失の
人みたいだつたらの世界

が終わった後に、書く予定である、この作品を掲示します。兄がノ
ートに書き留めていたので、代わりに打つて欲しいと言われたから
です。

現在、兄は体も良くなつて回復しています。しかし、まだ入院は続
きます。姉さん、もうじめいくお待ちください。

第一話

某国 深夜の国営カジノにて

空を闇で包みこんでいる最中に、屋上で座しげに動く影が一つ。

？？「おい、準備はいいか？」

？？「うん、オッケーだよ。」

？？「おっしゃー降ろすぜ。」

ロープに大きな袋を結びつけ、ゆっくり下降して行く。その袋から札束がはみ出していた。

地面に着地しようとした時だった。

ジリリリリリリリリ

眠りを妨げるぐらーの警報が響きカジノの電灯が点灯した。

？？「やつべー逃げるぞ唯ー。」

？？「あーよつつかやんー。」

二人は大金が入った袋を抱き走り出した。一人の前にいくつものバリケードが敷かれていた。だが一人は

律唯「とお――――――――！」

飛び越えた。その次も

律唯「とお――――――――！」

また次も

律唯「とお――――――――！」

飛び越え、自分達の愛車であるフイアット500に金を押し込み乗り込んだ。

律「分かってるって！」
唯「つちやん早く早く！警備員が達が来たよ！」

律はエンジンを掛け、猛スピードで走りだした。

バキュ
ン、バキュ　　ン

律「うおー！撃つて来やがった！？」

唯「必死だね。」

律「ああ…でも。」

唯「クフフフフ。」

二人は不敵に笑った。なぜなら……

警備員達は追いかけようと次々と、車に乗り込みエンジンをかけるが

ブ
…………ドガ
ンー！

発進させるとタイヤが取れたり、真つ二つに割れた。一人は予め、車を壊していた。

そして一台の車のボンネットの裏に、律の似顔で

『「」苦労さん』

と書いてあつた。

律「ハハハハハハハ！」

高速道路を走行している一台の車に、ギッシリと金が積み込まれていた。完全に一人は金に埋もれている状態だった。

律「50億はくだらねえぜ。」

唯「アイスいくつ買えるかな？」

律「アイスで計算するなよ。」

唯「まあまありっちゃん。お札のシャワーだよそれ――――――！」

唯は律に金を投げ込む

律「バカ止めろー。」

唯「いいじゃんいいじゃん。」

律「まあいいや。こんなにあつたら笑いが止まらねえぜ。ハハハハ

唯「ハハハハ。」

律「ハハハハ……ん？」

律は札束をジツと見ると違和感を感じ、スピードを落とした。

唯「どうじたのつちちゃん？」

律「捨つてちまおう。」

唯「ええ！？」

律「コイツは、偽モンだよ。よく出来ているけどな。」

唯「コレが？…まさか…国営カジノの大金庫から頂いたんだよ。」

律「ゴート札だよ。」

唯「ゴート札？」

律「幻と言われている偽札。国営カジノまでい、出回つていたとはな」

律はニヤツと笑い

律「唯。次の獲物が決まつたぜ。前祝いにパア とやるがいい。」

律は屋根開き

律「そりや！」

次に唯も

唯「えーー！」

運転席のドアも開き、金は空へ舞つて行つた。

空を舞つて行く金はまるで…この世の汚さを表しているような光景
だった。

偽札とも知らず、一体何人の者が、取り合ひのであろうか

律と唯はそう思いながら目的地を目指す。

第一話

唯「りっちゃん、もうスグで国境だよ。」

律「よし変装するか。」

律は力チューシャを外して髪を下ろし、サングラスを掛けた。

唯は服に空氣を入れ、太った体系になった。更に右頬に付けボクロを付け、メガネを掛けた。

律「よし行こう。」

唯「く、苦しい…。」

律「我慢しろ。」

空氣の入れ過ぎか、胸を圧迫していた。

律「取り合えず、平然を裝えよ。」

唯「うん。」

国境前で車を止める。

警官「パスポートを」

律は2つのパスポートを警官に渡す。（モチロン偽造）

警官はパスポートの写真と見比べる。唯の方もチラツと見る

警官「なんか…苦しそうなんですが…大丈夫ですか？」

平然と装えと言つていたにもかかわらず、唯は苦しそうな顔だった。

律「あ、イヤ…コイツ、乗り物酔いしちゃつたんですよ。」

唯「そ、そう…です。」

警官「だ、大丈夫ですか？」

唯「だ、大丈…夫です。」

警官「そうですか。少し、外の空気とか吸わせて、休ませて下さい
よ。」

律「はいそうします。」

パスポートを返して貰い、国境を潜る

律「唯もういいぞ。」

律のお許しが出たと同時に、服に穴を開け空気を抜いた。

唯「ああ…苦しかった。」

律「ヒヤヒヤしたぞ。」

唯「だつて本当に苦しかったんだもん。」

律「あーあー」苦笑さん。

律も運転をしながら変装を解いた。

唯「ジジが、カリオストロ公国?あまり聞かない国だね。」

律「総人口は3000人。世界一小さい加盟国だ。ゴート札の震源地としている。ゴート札のブラックホールでな。」

唯「ブラックホール?」

律「ちよっかいを出して、戻ってきた奴は誰もいねえってよ。」

唯「怖いね。怖いから、キャンディー舐めます。」

唯はポケットから、棒付きキャンディーを取り出して口に銜え、舐め始める。それから、暫く車を走らせていると

パン

律「うわ!」

唯「な、何！？」

音と共に、車のバランスが崩れた。律は冷静にスピードを緩め、脇道に車を停車した。

律「あちゃパンクだ。」

後ろの左タイヤがパンクしていた。

律「おい。」

唯「うん。」

律「ジヤン！」

唯「ケン！」

律・唯「ポン！」

律
グー

唯
チヨキ

律「にひひひ。勝利のグーだぜ。」

唯「それ、私の決め台詞。」

律「お前の決め台詞は、頂いた。」

唯「もう仲間の物まで盗まないでよー。」

律「はいはい。悪かった悪かった。はい、作業始め。」

唯「はーい。」

唯はタイヤを取り出し、作業にかかった。その間、律は空を見上げると、小鳥達が戯れていた。

律「平和だねー。」

そこへ

ブオオオオオオオオオオオオ

律「ん？」

物凄いスピードで車が迫つて来て

キュウウウキイイイイイ

それなりの年頃の女の子を乗せた車が通り過ぎて言った。そしてその後ろに黒服に帽子にサングラスと、とても警察とは呼べない人達を乗せた車も通り過ぎて行つた。

唯「何だろ、あれ？」

律「乗れ！」

唯「えっちょっと、りっちゃん！」

律が車に乗り込むと、ハンドルの近くにある緊急加速装置と書かれているボタンを押した。

ブブブブブウウウウウ

明らかに、車とは思えない音が響いた。

「わあー！待つてよー。」

唯も慌てて車に乗り込み

「発進！」

ゴオオオオオオオオ

普段10馬力しかない車が、今の間だけはF1カー並のスピードであつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3878z/>

K-ON × カリオストロの城

2011年12月25日16時51分発行